

第 3 回 館山市議会定例会会議録

(第 4 号)

1 平成6年9月19日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 秋山 光章
3番 島田 保
5番 宮沢 治海
7番 鈴木 順子
9番 脇田 安保
11番 山崎 雅己
13番 榎本 春光
15番 山中金治郎
18番 日下 君敏
20番 生稻 隆
22番 福原 勤
26番 辻田 実
28番 飯田 義男

2番 増田 基彦
4番 斉藤 実
6番 植木 馨
8番 永井 龍平
10番 庄司二三男
12番 岩村 勝弘
14番 小宮 利夫
17番 鈴木 忠夫
19番 川名 正二
21番 神田 守隆
23番 石井 昌治
27番 横溝 功

1 欠席議員 1名

16番 鈴木 勝美

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 川上 義雄
総務部長 神子 純一
経済部長 小沼 晃
水道課長 谷貝 実
選挙管理委員会
委員長 加藤 利

助 役 小幡 清之
市長公室長 永野 修
民生部長 渡辺 富雄
建設部長 三平 孝司
教育委員会
委員長 高橋 博夫
選挙管理委員会
事務局書記長 平嶋 倫治

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一
書記 四ノ宮 朗

事務局長補佐 鈴木 哲
書記 安田 仁一

1 議事日程（第4号）

平成6年9月19日午前10時開議

- 日程第1 {
- 認定第 1号 平成5年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第 2号 平成5年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第 3号 平成5年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第 4号 平成5年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第 5号 平成5年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第 6号 平成5年度館山市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第 7号 平成5年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について
 - 認定第 8号 平成5年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について

開 議 午前10時01分

◎議長（辻田 実君） 本日の出席議員数25名、これより第3回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第1、認定第1号乃至認定第8号、平成5年度館山市一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

なお、発言の際はページをお示しくくださるようお願いいたします。

21番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 認定第1号、一般会計決算についてお尋ねをいたします。私の質疑は決算事項別明細によって行いますので、よろしくお願いをいたします。

まず、歳出であります。43ページをお開きください。第1点は、議会費についてであります。第9節旅費がございます。この特別旅費に関してお尋ねをいたします。議員の海外視察の必要性を私は一般的に否定するものではありません。かつて、十数年前のことではありますが、半導体工場が館山に進出するというとき、半導体産業はクリーン産業と一般に信じられていました。ところが、半導体産業の立地先進地であるアメリカカリフォルニア州サンタクララ郡——いわゆるシリコンバレーと言われたところではありますが、深刻な地下水汚染が進行していて大問題になっておりました。これに関する資料を入手するために大変いろいろと苦労いたしましたが、現地を視察し、その対策をどのようにしているのかなど、ぜひ見てみたいものだと思ったわけがあります。幸い、いろいろなルートを通じ、現地の資料を入手することができましたので、館山市が全国的にも先進的な半導体工場との公害防止協定を結ぶということができたわけであります。海外視察といっても、十分に必要なものもたくさんあるものと思いますが、しかし必ずしも現地に行かなくても、その情報の入手は可能であります。

私は、海外視察は多額の公費を使うものであるだけに、なるほどと市民の理解が得られるものでなければならないと思います。そのためには、明確な調査目的をはっきりさせる必要があるし、またその目的を達成するのに最も効率的、合理的なやり方を工夫すべきだと考えるのであります。一般的に見聞を広げるためとか、行ってみれば多少とも役に立つといったことでは、多

額の公費を支出する事業としてふさわしくないと考えます。

そこでお尋ねをいたします。旅費の中で特別旅費として 336万 9,200円が支出されているわけですが、このうち議員の海外視察にかかわる旅費は幾らかかったのか。また、海外視察の調査目的は何だったのか。そして、やってみて、その成果はどうであったと受けとめているのか。また、こうした海外視察については毎年同じようなことを繰り返して行う必要があると思われるわけですが、どのようにお考えになっているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、44ページをお開きいただきたいと思います。19節の負担金補助及び交付金、この中に議員厚生事業交付金60万 5,000円があります。これに関してお尋ねをいたします。議員厚生事業交付金という支出項目が計上されたのはこの年度が初めてのことであります。これまではこうした支出項目はありませんでした。これは市民の貴重な税金であります。議員は市民の代表としてこの税金の使われ方を監視する重要な責務があります。それだけに、議員自身が自らにかかわる公費支出に対してどのような姿勢を持っているのかが問われます。自らの公費の使用についてルーズな姿勢があればあるほど、市財政のむだ遣いに厳しく注文をつけることができるのかと疑念を抱かれることになるからであります。

そこでお尋ねをいたします。この事業による支出の具体的内容について御説明をいただきたいと思います。

次に、厚生事業の名のもとに――議員の野球や、あるいはゴルフの大会などは議員厚生事業に値しないと思うのでありますが、これらは公費支出すべき公的な事業と言えるのかどうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、47ページであります。総務費中の文書広報費、これの19節負担金補助及び交付金に館山市町内会連合協議会補助金 770万円の支出があります。この町内会連合協議会補助金についてお尋ねをいたします。この補助金に関する問題は、6月市議会の行政一般質問でも、主に地方自治法 232条の2を中心に、補助金の公益性やその客観基準をめぐって取り上げ、議論してまいりました。今回は6月とは違った側面からこの問題点を指摘してまいりたい

と思うのであります。

まず、この補助金は何に対する補助なのか、その支出目的は何かという点であります。この支出項目は文書広報費であります。広報の配布等については、個別に町内会等と契約を結び、行政事務委託料としておよそ 1,900万円ほど支出しています。したがって、それとは別に広報等の発行事業で町内会連合協議会に補助金を支出するような事業は全く見当もつきません。何がこの補助金の補助対象事業なのかをお示しいただきたいと思うのであります。

次に、補助金を支出している団体から選挙のために推薦をもらうというのは、選挙のための補助金支出ということになりますと、公職選挙法 221条ないし 222条の利害誘導罪に抵触しかねない問題のある支出ということになるかと思います。補助金を支出している団体から推薦をもらうというのは、公職選挙法上好ましいこととは思えないのでありますが、いかがでありますか。そもそも、さまざまな考え方や利害関係を持つ方が地域に住んでいるということであつてつくられているのが町内会であり、そうした性格からすれば、選挙でだれを推薦するかを決めること自体にもともと無理があることなのであります。選挙は有権者一人一人の判断が最も尊重されるべきものですから、それは当然のことかと思うのでありますが、いかがお考えですか。

次に、県内30市の中でこのような町内会連合協議会等への補助金を支出している市があるのかどうか、調査したことがあるか、お聞かせをいただきたいと思うのであります。

70ページをお開きください。老人福祉費の中で、13節委託料に老人サービス委託料 223万 3,057円の支出がございます。ことしの3月からサービスが始まりましたので、昨年度のサービスがどれだけ実施できたかの実績は、実質的にはわずか1カ月しかありませんでした。しかし、このサービスの評判は大変なもので、大変な手応えを感じられていることと思います。

おくれて出発した館山のサービスであります。全国的にはどういう水準にあるのかきちんと確認をしておくことが今後のこの事業を考える上で重要なことと思います。先日の質疑でも引用いたしましたが、この15日に発

表された在宅福祉利用率の全国水準ですが、デイサービスについては、平成4年度の全国平均が高齢者 100人当たり55.8日であります。千葉県平均はわずか21.7日であります。館山市は平成6年度でどの程度の利用率になるものと見込まれますか。私の試算では、平成4年度の千葉県平均の約半分、また全国平均の5分の1の水準にすぎないのではないかと思いますのでありますが、いかがでしょうか。

71ページ、扶助費の老人日常生活用具交付扶助費 215万 621円に関してお尋ねいたします。老人福祉費の扶助費に老人日常生活用具交付費として 215万 621円が支出されているわけですが、館山市の要綱では、寝たきりといっても、対象になるのは居宅で6カ月以上寝たきりの状態にある65歳以上の方となっております。病気で入院し、寝たきりになって自宅に帰ってきても、6カ月は日常生活用具交付の対象となりません。なぜ6カ月間はだめだというのでありましょくか。その事情は何でしょうか。寝たきりになった方には必要ならすぐにでも交付していくというのが本来のあり方ではないかと思うのであります。現に丸山町ではこの6カ月という制約を取り除いております。これが本当ではないかと思うのであります。いかがお考えでしょうか。

次に、105ページです。土木費、都市計画費の都市計画総務費、19節負担金補助及び交付金の東関東自動車道館山線建設促進期成同盟会負担金6万 5,000円に関してお尋ねをいたします。2年前の9月市議会で私は、金谷フェリーの渋滞ネック解消のために、鋸南道路部分の早期供用開始を求めるべきと質問をいたしましたが、そのときの御答弁では、建設省は部分供用もする方向で検討中ということでありました。その見通しは現在どのようになっていますか、御説明をいただきたいと思うのであります。

鋸南道路については、これまでに買収もほとんど終わっているが、ひまわり園の所有にかかわる土地が買収できないと伺っておりました。このひまわり園は、乱脈な経理問題が発覚し、ついに県の解散命令が出されたと伺っております。こうしたことは鋸南道路の建設にどのような影響を及ぼすことが考えられるのか、御説明をいただきたいと思うのであります。

106ページをお開きください。都市下水路費の委託料 381万 1,000円の支出に関してお尋ねをいたします。那古下水路についてであります、今年度で辻などの部分の改良工事が終わり、次年度からは海岸部分からの工事に進むものと思います。この工事に当たっては、那古下水路と交差する内房線の部分について、J Rとの協議が既に終わっているものと思います。いわゆる大芝踏切にかかわる部分の下水路の改良についての協議であります。92年6月の私の質問に対して市長は、当踏切については那古下水路改良計画に合わせて東日本旅客鉄道千葉支社と協議していきますと答えておりましたが、どのようなになったのか、御説明を願いたいと思うのであります。

109ページをお開きいただきたいと思います。土地区画整理費の13節委託料の館山駅橋上駅舎建設基本調査委託料 515万円に関連してお尋ねをいたします。もともと市の5カ年計画では自由通路をつくるということでありました。それが急遽橋上駅舎に計画を変更していこうとのことですが、そんなに急いで橋上駅舎をつくる必要があるのかどうか。市の現在の財政状況を含めて考えた場合に、もっと優先すべき課題があるのではないか。その事業の緊急性は大変疑問に思うところであります。

そこでお尋ねをするわけですが、まず、この駅舎部分の建設費は幾らになるのかお示してください。橋上駅舎のうち、いわゆる駅舎部分は当然J Rが収益を上げるための施設であり、その建設費負担はJ Rが持つべきと思うのでありますが、いかがお考えですか。

次に、現在の駅舎はなかなか立派な駅舎であり、趣のある建物と思いますが、現在の駅舎についてはどのようななさる計画でありましょうか。取り壊すのでありましょうか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、市の5カ年計画では、自由通路に障害者用にステップリフトをつけることになっております。橋上駅舎ではこのステップリフトについてはどのように検討されているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

119ページをお開きいただきたいと思います。教育費の中学校費についてお尋ねをいたします。昨年6月市議会で市内中学校の免許外教科担任の実情をお尋ねをいたしました。そのときの説明では、4年度19名、5年度20名と

いうことでありました。そして、これらの解消について、県教育委員会に市教育委員会としては要望していくんだということでありました。新聞の報道によりますと、全国的には昨年の免許外教科担任は3万9,000件あったが、今年度は文部省が非常勤講師制度への補助を導入したために3万1,000件に減ったということであります。館山市の今年度の免許外教科担任は減っていますかどうか、具体的にお示しをいただきたいと思います。

次に、124ページ、社会教育費に関連してお尋ねをいたします。昨年3月のこの予算の審議の中で、社会教育費に関して、館山湾のサンゴ保護策について市教育長の考えをただしたところであります。御答弁では、千葉県教育委員会が実態調査を行うので、市としては県と連絡をとっていくということでありました。実態調査の結果はどうであったのか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

認定第1号平成5年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定に関します御質問の大きな第1、議会費についての小さな第1点目、海外視察旅費についての御質問でございますが、議員の海外視察研修につきましては、国際交流に努めるとともに、国外各都市の実情を視察し、見聞を広める目的で実施しております。平成5年度は姉妹都市ベリンハムを訪問し、相互の理解と認識を深め、当初の目的を十分果たしたものと伺っております。なお、経費として265万6,000円を支出いたしました。

次に、小さな第2点目、議員厚生事業交付金についての御質問でございますが、館山市議会では議員団を結成し、議員相互の親善を図るとともに、各市議会との交流を促進しております。そのための活動費の一部を交付しているものでございます。

次に、大きな第2、総務費についての小さな第1点、文書広報費、町内会連合協議会補助金についての御質問でございますが、館山市町内会連合協議

会補助金は、町内会相互の連絡協調と親睦を図り、地域社会の発展に寄与することを目的とした町内会連合協議会の活動に対し補助するものでございます。行政事務委託料につきましては、市民に対して行政事務連絡の徹底を図り、館山市と町内会との連絡を円滑にし、行政事務を効率的に運用するために町内会と委託契約し、委託料を交付するものでございます。

千葉県内で町内会の連合組織に対し補助事業を行っている市は平成3年度で20市でございます。

次に、補助団体の推薦問題につきましては、選挙管理委員長より御答弁申し上げます。

次に、大きな第3、民生費の小さな第1点目、デイサービスの今年度の利用見込みと全国平均との比較の問題でございますが、今年度の利用者は年間延べ1,200日程度を見込んでおりまして、65歳以上人口100人当たりの年間利用日数は10.5日でございます。

小さな第2点目、老人日常生活用具の6カ月以上についての御質問でございますが、6カ月という期間は寝たきり状態がおおむね固定する時期と言われておりますが、期間につきましては個々のケースの状況によりまして弾力的に運営しております。

次に、大きな第4、土木費についての小さな第1点目、東関東自動車道館山線建設促進についての御質問でございますが、高規格127号富津館山道路のうち、鋸南道路等の進捗状況等につきましては、建設部長より答弁申し上げます。

ひまわり園につきましては、建設省千葉国道工事事務所において用地交渉を行っていると同っております。

また、一部供用開始につきましては、関係機関に機会あるごとに要望しているところでございます。

次に、小さな第2点目、那古下水路についての御質問でございますが、那古大芝踏切につきましては、既に東日本旅客鉄道株式会社千葉支社との間で計画協議が終了しております。

次に、小さな第3点目、館山駅舎建設基本調査委託料についての御質問で

ございますが、館山駅橋上駅舎建設計画の経緯は、平成4年6月の市議会で館山駅橋上駅舎建設に関する請願が採択され、10月には2万7,000余人の署名を添えての陳情書が提出されるなど駅舎建設の機運が高まり、平成5年6月1日に館山駅橋上駅舎建設促進協議会を設立し、館山市の表玄関にふさわしい利便性に富んだ駅舎の実現に向け、現在努力しているところでございます。

建設費につきましては、基本調査の概算では総額約19億円となっております。

なお、計画しております駅舎には、歩行等の困難な方のためにエレベーターを設置する予定でございます。

建設費の負担割合につきましては、今年度実施しております概略設計を踏まえまして、関係機関と協議してまいります。

また、現在の駅舎の取り扱いにつきましては、JRで検討しているところであります。

次に、大きな第5、教育費についての御質問でございますが、教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 加藤選挙管理委員長。

（選挙管理委員会委員長加藤 利君登壇）

◎選挙管理委員会委員長（加藤 利君） 答弁を申し上げます。

補助団体の推薦決議についての御質問でございますが、公職選挙法上特に問題はないと理解しております。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 次に、大きな第5、教育費についての小さな第1点目、中学校の免許外教科担任教員解消についての御質問でございますが、館山市教育委員会といたしましても、例年千葉県教育委員会に免許外教科担任教員の解消を働きかけているところでございます。

館山市における免許外教科担任教員は、平成5年度5教科担当1名、技能

教科担当21名でございましたが、6年度は5教科担当1名、技能教科担当17名となっております。なお、18名中15名が選択履修教科担当で、正規授業担当は美術科担当3名でございます。

次に、小さな第2点目、サンゴ保護策についての御質問でございますが、千葉県教育委員会と協議したところ、海中のサンゴについては文化財として指定、保護することは難しいとのことでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 鋸南道路等の進捗状況についてでございますが、千葉国道工事事務所より伺ったところによりますと、鋸南道路は用地についておおむね100%、工事についてはおおむね96%、また、ひまわり園が計画用地にある金谷道路は用地についておおむね94%、工事については66%の進捗状況であるとのことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 若干答弁漏れもありますので、あえてお尋ねいたしますけれども、まず議会費に関連しての海外視察旅費の問題でありますけれども、265万6,000円、これが議員の海外視察にかけたお金だということですから、やはりかなりの金額であります。その目的は国際交流とか、見聞を広げるとか、極めて一般的なことしか御答弁では示されなかったわけで、大変残念なことだというふうに私自身思うわけですが、去年はベリンハムに行かれたということで、国際交流というのは——ベリンハムは姉妹都市協定を結んでいるということもあろうかと思うんですが、1つお尋ねしたいんですが、今年もまた海外視察をベリンハムで行うというような話を聞いておるわけでありまして、そもそもこういう国際交流というようなことを一般的な目的を持って年々やる必要があるのかどうか、この辺についてどういうふうにお考えになれるか、お尋ねをしたいと思うのであります。この海外旅費というのは、先ほども指摘をいたしましたけれども、極めて多額の費用を使うものでありますし、その目的が市民にとってな

るほどと言われるものでなければならないと思いますので、お聞かせいただきたいと思うんです。

市民レベルでそれぞれ交流が進んでおりますけれども、もう一点お尋ねしたいのは、館山市からベリンハム市に昨年訪問をして、そしてベリンハム市から議員がこちらに訪問したという事実は最近の中にあるのかどうか、そういうところでお聞かせいただきたい。

それから、同じく姉妹都市という点では、石和町が館山市との姉妹都市でありますけれども、姉妹都市だからということで言うと、こういうところとは全くそういうことをやっていないから、国際交流ということで、特にベリンハムがというのもいささか唐突な感がするんでありますけれども、その辺はいかがでありますか。

また、この国際交流にかかわる費用の負担のあり方について、私はアメリカの方の状況ということから推察するわけでありまして、当然こうした国際交流にかかわる費用というのはボランティアを中心にして行われるというのが多くの例だろうと思います。そういう点から、日本にアメリカベリンハムから訪問されてきている方の場合に、その費用負担についてはどのようなになっているか、どういうふうに向っているか、お聞かせいただきたいと思うんであります。

次に、議員厚生事業交付金であります、議員団を結成しておいて、その議員団の活動のために交付するお金だということで60万 5,000円。議員団というのはずっと昔からあります。去年結成されたわけじゃないと思うんです。去年からこの事業に交付するようになったというのはちょっと今の説明ではわからない。そしてまた、その事業の中身——私も議員団の一員でありますから、少なくとも議員団の一員ではありますけれども、私は議員の野球部の部員でもありませんし、これは全然違うことです。任意に野球のクラブもつくっておるし、ゴルフをやる方もおられるわけです。従来そういうものについてはそれぞれの負担において行われていたもので、公費で負担すべきものではないと認識されてきたわけでありまして。今回こういうものに支出をされたということなのかどうなのか、議員の厚生事業の支出の具体的内容につい

て。もしそういうことに支出されたとすれば、それはどういう考え方からなのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、総務費の町内会連合にかかわる問題であります。市長さんの御説明で、何かよくわからないんです、私聞いていても。それで、端的にお伺いしたいと思うんですが、補助の是非という問題でここで議論をするわけですが、お尋ねしたい点は、文書広報費という、こういう項目で支出されるわけです。ところが、町内会等の親睦とか相互の親睦とかということでこれを支出、こういう予算項目で支出をするというのは全く理解できないんです。なぜ文書広報費ということで、広報のために補助事業ということでこれが必要になるのか。行政委託料は既に別に 1,900万円文書広報費として支出されているわけです。文書広報費とは別に、なぜ文書広報費としてこの町内会連合協議会にお金を出す必要があるのか、これは二重にお金を出していることになりはしないか、こういう点であります。

次は公職選挙法の問題であります。特に問題はないというお話でございました。しかしながら、公職選挙法の 221条ないし 222条の利害誘導罪、こういう法律がございます。運用を誤ると、これに抵触するということが十分出てくることもあり得ますので、その辺を心していただきたいなということを一言述べておきたいと思います。

次に、老人福祉費のデイサービスに関連してでありますが、平成4年度のデイサービスの利用率は、全国的には高齢者 100人当たり55.8、千葉県が21.7、そして平成6年度、それから2年後、今年度ですね、館山市の見込みが10.5日ということでもありますから、私が先ほど指摘しましたように、2年前の全国平均の5分の1、これが館山市のデイサービスの利用率の水準だと率直にこの数字を受けとめなきゃいけないと思うんです。全国の水準に比べて館山市のこのデイサービスの状況というのは余りにもおくれた状況だ。こういう数字がもろに出てきますと、館山市の福祉はどうなっているんだ、市長さんの政治姿勢はお年寄りに冷たいのか、こういうことを言われかねない数字だろうと思うんです。確かに努力しているのは認めますけれども、率直にこの数字の現況についてどのようにお受けとめになるのか。

現にこの問題については、登録者が60人もあるんです、現在、デイサービス。週2回のデイサービスを受けるというのが目標でありますから、だいたしますと、キャパシティとしては15人なんです。ところが、登録者が60人もある。登録者の数がこれだけあるということは、やはりこの制度の充実という問題について住民の中に非常に大きな期待がある、こういうことの数字だろうと思うんです。そういう市民の状況も踏まえた上で、この数字というものについて引き上げるような努力という点では、これはもう施設を整備するのを急ぐほかないんだろうと思うんです。この辺についての市長さんのお受けとめをいただきたい。

それから、日常生活用具の交付事業については、6カ月ということにこだわらずに、弾力的に運用を図っていきます。例えば、脳梗塞で倒れて、病院で入院をして帰ってくる。自宅に帰ってきたという場合に、6カ月間たってからこの対象になるんじゃないくて、帰ってきたらすぐにでも特殊ベッドとか、そういうものの対象にするというのがやはり温かい市政ということになると思うんです。

それで、弾力的な運用というのはわかったようでわからないんですけれども、どういうふうになさることなのか。丸山町ではこの6カ月以上という制約を取り払っちゃったんです。すぐにでも、寝たきり状態というふうになれば、この該当者にいたしますというふうにしたんです。国の制度やいろんな関係がありますけれども、その町の姿勢というのは私は評価できることだろうと思いますし、館山市としても、弾力的な運用などということではなくて、これは要綱でできることでありますから、要綱自身を変えて、6カ月というものを、これを考え直す、外すということで検討をいただけないのかどうか、その辺をお聞かせいただきたいと思うんです。

次に、土木費の鋸南道路にかかわる点でありますけれども、ひまわり園が解散というような命令を出されて、福祉の面から大変大きな問題だ。全国でこういうことになったのは初めて。一応法律上は予定されていたけれども、こういうことが出たというのは初めてだそうですから、非常に不名誉なことだろうと思いますけれども、そういう中で、今の御答弁ですと、建設

省はひまわり園と交渉中だ、用地の買収について、ということでありました。これは具体的にどういうことなのか。私が率直に聞きたいことは、こういう今の状況の中で、ひまわり園にかかわるこの用地の買収、こういうことになって、これは買収は並み大抵のことではない、いつになるかわからないという状況になってしまったというふうに認識すべきか、いや、こういうことであればかえって話が早く進む、こういう認識に立っていいのかどうか、あるいは全くそれはわからないということなのか、その辺を端的にお答えをいただけたらと思うんです。あそこの 127号の鋸南道路、金谷道路に関しては、あそこを通りますと、127号からの取り付け道路なんかも立派にできちゃって、いつでも走れるんじゃないかなという錯覚を覚えるんですけども、それだけにこの問題の解決が急がれると思いますので、その辺の状況についての御説明をいただきたい。

それから、大芝踏切に関してでありますけれども、ＪＲとの協議は終わったという御説明だけで、終わった結果どうだったのか。この踏切部分の整備については下水路整備とあわせて交渉するということがこれまでの答弁の中にあったわけなんで、協議が終わったならば、その結果どうであったのか、この協議の結果、内容について御説明をいただきたいと思います。

それから、次に橋上駅舎問題であります。19億円駅舎全体でかかる、こういうお話であります。こういう中で、自由通路は、これはもともと将来の駅舎との整合性のある自由通路ということであったわけでありまして、駅舎も一緒に今回つくろう、こういうことではあります。当然ＪＲの駅舎というのは、これはＪＲの施設ということになろうかと思うんです。ＪＲが収益を上げるための施設ということになろうかと思うんですが、だとすれば、その建設費負担は当然ＪＲが持つべきで、まして市民の税金でこれを負担するということはあってはならないことだろうと思うんですけども、その辺についてはどのようにお考えになっておるのか、お聞かせいただきたいと思っています。

現在の駅舎の問題でありますけれども、ＪＲで検討中ということではあります。市民の中の意見をいろいろ聞いてみますと、なかなか趣のある駅舎とい

うことで、あの駅舎に対する思いもそれなりに感じられるところであります。そういう意見を私も聞いております。なるほどと思われるところもあります。そういうことを踏まえて、ＪＲで検討中ということでもありますから、ぜひそういう住民の意というものを心がけて、ＪＲとの間で協議等の場合に対応していただきたいと思います。

中学校費についてであります。先ほどの御説明では、５年度は２２名の免許外があった。これが１８名に６年度は減ったということでもあります。そのことは大変結構なことだと思います。そこで、文部省が非常勤講師制度への補助を９４年度、今年度から実施をしたということでもあります。しかしながら、館山市の現況からすると、必ずしもこれの該当にならない。この要件は５学級以下の中学校ということがあるわけで、館山ぐらゐの規模になりますと、これに該当して、すんなりと非常勤講師の問題で解消策の決め手にならないというふうに思うわけでもありますけれども、しかしながら、国が従来の姿勢から文部省が非常勤講師制度への助成制度を実施をしたということは大変意味のあることだろうと思うんです。東京都などでは、既にこれ以前から単独事業として非常勤講師への助成制度を実施したわけでもありますけれども、県教委に対して、館山の実情等を踏まえた場合に、国の補助事業だけでは必ずしもこの減少、免許外の教師の減少に効果を上げ得ないということかと思いますので、さらに県に対してこの枠を拡大をする——国がやってくれればいいわけですが、当面県の事業としても、こういうものに対する県の単独部分も含めて、この制度の拡充を図っていくということが求められる必要があるんじゃないかなと思うんですが、その辺についてどういうふうにお考えになっているか、お聞かせをいただきたいと思うんであります。

それから、サンゴの問題でありますけれども、文化財としての保護は困難であるというのが県教育委員会の調査の結果であったということでもあります。これはこれとして残念なことだと思います。これにかかわる調査の報告書——どのような調査を行ってこういう結論が出されたのか、これについては調査報告書があると思いますので、それについて、市としてその内容を検討する必要があるんじゃないか。というのは、市としてはどう対応していくの

かという問題が残されるわけです。社会教育の文化財としては難しいということがあるという結論が県として出たということでありますけれども、ほかの方法はないのかどうか。もともとこれは環境庁の環境調査という中でこの問題が出されたいきさつがございます。非常に重要な視点でもあろうかと思えます。そういう点で、県の調査内容を検討して、どのような方法があるのかないのか、市として対応できるものがないのかどうか、その辺の検討を進めていくお考えはないかどうかという点についてお聞かせをいただきたいと思えます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 兵藤議会事務局長。

◎事務局長（兵藤恭一君） それでは、議会費の関係につきまして私の方からお答えをいたします。

議員の海外視察に関する質問の第1点でございますが、毎年実施する必要があるのかという御質問でございます。私どもでは、各年度4名から5名の議員さんを派遣をしております。できるだけ多くの議員の皆さんに参加をしていただきたいということで、毎年実施をしておるものでございます。

次に、議員厚生事業交付金についてでございますけれども、議長会等が実施する議員研修会、議員の親善大会等に積極的に参加をしているわけでございます。それらに参加するための、活動するための諸経費に充当しているわけでございます。議長会等の行う事業につきましては、広い意味での議会活動の一環であるというふうに考え、交付をいたしたものでございますので、御理解をいただきたいと思えます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 永野市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 姉妹都市のベリンハム市との関連の質問でございますが、ベリンハム市からの議員としての身分で館山に来たという事実はございません。

なお、その費用負担につきましては、詳細はわかりませんが、通常の場合に、これは当然国情の違いもあるかと思えますけれども、私の費用で

来ているというふうに伺っております。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 次に、館山市町内会連合協議会補助金が文書広報費に計上されていることについてなんですが、文書広報費という予算科目で計上していることにつきましては、財政法上または会計処理上特に問題はない、そういうふうに理解しております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） まず、デイサービス制度の充実を早急に図るべきという御質問でございますけれども、デイサービス事業の充実につきましては、老人保健福祉計画にも目標として定められているわけでございます。したがって、施設整備の必要性は十分認識をしているところでございます。何と申しましても、こういった福祉サービスの施設につきましては——供給体制、これを充実するためには、何と申しましても所要の財源措置が必要であるわけです。したがって、国、県の動向を見きわめながら今後検討してまいりたいというふうに考えております。

それから、2点目の日常用具給付の寝たきり6カ月という期間を外したらどうかという御質問でございますけれども、原則的にはおおむね6カ月以上寝たきり状態ということでございますけれども、寝たきり状態から回復しなくても、短い期間でという解釈のもとに今後対応してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） ひまわり園の用地の交渉の状況ということでございますが、千葉国道工事事務所におきまして現在用地交渉を行っておるわけなんですが、非常に御案内のように権利関係がふくそうしておりまして、各権利者同士での調整を行っておると聞いております。

また、将来の見通しということでございますが、道路の建設に対しては協力する意思があるというふうにも伺っております。

次に、那古下水路の関係でございますが、協議の内容ということでございますが、下水路の協議は調ってございます。踏切等につきましては、過去に踏切が整理統合されたという経過がございますので、非常に現況では困難というふうに考えております。

その次に、3番目の橋上駅舎の負担等についてでございますが、平成6年度に、本年度ですが、概略設計を進めておるところでございますが、これの概略設計を見定めた上で、やはり国、県と負担割合等について協議を進めてまいるところでございます。

また、駅舎の取り扱いについては、今後とも概略設計を含めた中で協議を進めてまいりたい、あわせて協議をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 中学校の免許外教科担任教員の解消についてでございますけれども、御承知のとおりに確かに5学級でございますが、当館山市にはございません。安房郡内におきましてただ1校でございます。そんな関係上、もしもとするならば、さらにこの枠を広げるように、県を通じてさらに要望はしていきたいと思うわけでございます。

また、県独自でということでございますので、この件につきましてもさらに協議会等の中でもって要望はしてまいりたいと思うし、そのまた一面、第6次教職員配当というのがございまして、館山市も受けております。さらにその配当がふえるように県に対しても働きかけていきたい、こう考えております。

次に、サンゴの問題でございますけれども、今後の館山市の対応といたしましては、情報の提供を図るとともに、一般市民に対しましても啓発活動をさらに進めていくというふうにしていきたいと考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 海外視察の問題でありますけれども、そもそも海

外視察に関しては、毎年度4名ないし5名ということで、各議員がすべて行くんだ、こういうことで、するということ自身がそもそもやっぱり違うんじゃないか。具体的な調査目的があって初めてそれは実施すべきなんであって、まず海外視察ありきでというのはやはり逆さまじゃないかなと思うんです。そういう点では、今の御説明では私は、そもそも必要があるのかどうかという点で、根本的なやっぱり疑念を感じます。

そういうところから、県内の各市において海外視察についても中止をする。昨今の財政事情というようなことも含めて、あるいは市民感情ということもあるでしょう。木更津では、今年度予算計上したけれども、実際には予算執行はしないというようなことで伺っております。新聞でもそのように報道されております。県内の各市の中で、こうした議員の海外視察については縮小とか、あるいは中止だとか、こういうことが報道されているわけでありましてけれども、そうした県内の状況についてどのように把握をされているかお聞かせをいただきたい。

それから、議員の厚生事業でありますけれども、先ほどの御答弁では、議長会で主催する事業に対して厚生事業ということで支出しているということでありましたから、議長会で主催する事業以外はないというふうに理解をされているのかどうか、そして議長会で主催する事業というのは具体的に何を言っているのかお示しをいただきたい。私は再三、議員の野球やゴルフというようなことは、これは我々は支出すべき問題じゃないと思いますので、そういう点から、議員の野球大会あるいはゴルフ大会、こういうものの支出はあるのかどうか。

それから、平成5年度からこの予算が計上されたわけで、それ以前はこういう議員の厚生事業補助金というのはなかったわけで、基本的には私費で議員が負担をしてやっていたものだろうというふうに思うんですが、なぜこの年度ということから——特別な事情がそこらであったのかどうかということです。

町内会連合協議会への補助金の問題であります、財政法上問題はない、法律上の問題としてはそういうことだという御答弁でありましたけれども、

なかなか納得できないです、法律的な問題ということでは。どうも補助目的ということから考えると、二重投資、二重支出という疑念を払拭できませんので、この点について、文書の広報ということで、どのような関連があるというふうに一応理解したらいいのか、この補助金の支出が、御説明いただきたいと思います。

次に、デイサービスに関連してでありますけれども、財源がなかなか示されないということで、これは大変大きな問題を持っているのは私もそのとおりだと思います。そういう中で、館山市として——国がこの財源を示して、どんどん市町村がやれるような状況をつくるということが第1の問題であります。しかし、そうはいっても、国が財源を示さないからといって、これに市として何もやれないのかというのもまたちょっと違うような気もするわけです。要は、館山市の限られた財源の中でどのようにこの問題について積極的な対応をしていくのかという問題がその後の問題としてあるわけです。確かに限られた苦しい財源ではあるけれども、何とか市の財源の中で優先順位をこの問題に関してはつけなければならないんじゃないか、こういう問題であります。

先日も、16日にもお尋ねいたしましたけれども、全国的に在宅福祉の水準は、国が財源を示さないという大問題がある中でも、それなりにそれぞれ進捗しております。ホームヘルパーの利用率にしても、ショートステイにしても、あるいはデイサービスにしても、大体3年間でホームヘルパーの利用率は50%近くもふえているとか、こういう実情があったわけです。そういう中で、全国的にはそれぞれの市町村が国がなかなか財源を示さないという中でもそれなりに工夫して、努力をしてどんどん進んでいるという事実もあるわけです。それは、優先的に財源を配分して、苦しい中でやりくりをしている1つの姿が出ているんだろうと思います。館山市も、国に要求をすると同時に、市の単独の財源の中でもやはり何とかこの点での優先順位をつけて福祉の充実を図らないと、全国的なレベルからどんどんおくらせてしまう、こういうことになりはしないかと思うんです。

率直に言って、このデイサービスは今までゼロだったですから——平成4

年度はゼロだったんです。このとき既に国平均では55.8日だったわけです。2年後の今日、何とか10.5日という見込みが立てられるようになったわけです。しかし、館山市の前から見れば前進ではあるけれども、極めてまだささやかな前進だと思うんです、全国的な水準から考えた場合に。そこで、国が財源を示さないから、なかなか財源不足でできませんよというのも1つの答えなんでしょうけれども、そういう中でどうやって市としてはこの問題について優先順位をつけてやっていくのかということも問われなきゃいけないわけで、その辺をどういうふうにお考えになっているのか。他の事業とのバランスの問題も当然ございます。率直に言って、この部分は全体としておくれっている分野だ、こういう認識を持って、市としては優先順位をつけなければならないというふうにお考えになっているのかどうか、こちら辺の認識をお伺いしたいんです。

次に、駅舎の問題でありますけれども、本年度の概略設計の結果、その負担がどうなるかということがそれぞれわかるということでもありますけれども、基本的なお考えとしては、この駅舎について、J R — これはもう営利企業になったわけです。営利企業になっただけに、営利目的のために公共性を無視するようなこともどんどん起きてきております。J Rの従来のある方からしますと、そういう点を多々感じることも多くなりました。そういう全く営利企業になったJ Rであります。この駅舎というのは、これは営利事業の一環として、J Rが本来負担すべきものであることは当然なんです。これに対して公費をつぎ込むということ、公費で補助をしたり、あるいは公費でそれを全部負担をしたりすることは、これは一応禁止されていることになると思うんです、法律上。したがって、公費をこの事業のために、駅舎部分の営利事業のためにつぎ込むということは、法的にはできないことだろうと思うんですけれども — 地方自治法 232条の2です。この解釈について判例もございます。営利会社に対する補助は、特別の事由がある場合のほか、公益上必要があると認められない、基本的には公益上認められない、これが地方自治法 232条の2の解釈でありますし、またこれに対して補助ができるのは自己に財政上の余裕がある場合に限られる、こういうふうになっているわけで

す。よっぽど財政上余裕があるという状況じゃないですね、今の館山市は。国からの補助金が示されないからといって、デイサービスの問題も全国水準の5分の1、こういう水準できゅうきゅうとしているという、この実情を考えた場合に、余裕があるという認識には立てないんじゃないかなと思うんです。その辺はどのようにお考えになっておられるのか、お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 兵藤議会事務局長。

◎事務局長（兵藤恭一君） お答えをいたします。

第1点の海外視察の県内の状況をどのように把握しているかということでございますが、本年度、6年度予算計上して実施を見送ったというふうに聞いておりますのは木更津市だけでございます。

次の議員厚生事業でございますけれども、議長会で主催する事業の内容ということでございますが、私どもが議長会の事業として参加をいたしておりますのは議員研修会、野球大会、ゴルフ大会でございます。したがって、議員の親善大会等の費用として厚生費を支出をいたしてございます。

5年度から計上した理由は特別の事情があったのかという御質問でございますが、従来からこの費用につきましては検討してまいってきたわけでございますが、各市の状況等を調査いたしまして、5年度に初めて計上したということでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 町内会に対する補助金と委託料については二重投資じゃないかということですが、これにつきましては文書広報費という予算の科目の中で区分して支出しているものでございまして、それぞれ目的と性格が異なるものでございますので、おのあの事業に沿って、規則等に基づきまして支出している、こういうふうに認識しております。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） デイサービス事業を優先順位をつけて積極的にという御質問でございますけれども、老人保健福祉計画 — 1カ月ずれます

けれども、初年度から、早々から1カ所の整備を図ったわけでございます。こういった住民の要望に応じて積極的に取り組んでいるんだという姿勢をひとつ御理解をいただきたいと思います。今後もその計画にのっとって努力してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 駅舎の負担金はできないじゃないかという、その考え方についてでございますが、現在予定しております駅舎は地平駅でございます。1階部分については公的なものが入るスペースがある、あるいは館山駅の仮想設計分ということで、そういうものを加味されて、地財法というのがございますが、そういう中で今後とも国と、あるいは県との協議をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 以上で21番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑はございませんか。

15番山中さん。

◎15番（山中金治郎君） 通告してございませんので、これは質問ではございません。要望ということでお聞き願いたいと思います。

実は、今お聞きしておりますも、非常に館山市は財政規模が小さいものですから、お金がないからいろんな注文が出ててもできないという、何か言いわけばかりの答弁のように聞こえてなりません。

そこで、この決算の意見書をちょっと読んでみましても、こう出ております。一般会計における財政分析指数は、経常収支比率79.5%、公債費比率14.4%、財政力指数が0.71ということになっておりますが、この問題は、経常収支比率が79.5という、これが80%を超えると財政の弾力性がなくなりますよという、これは注意信号なんです。それに近づいているということなんです。それで、公債費比率も14%を超えてきたということで、前年度から公債費比率も上がっております。そういうことで、今後の財政運営に当たって

は、財源の安定確保と経費の節減に努め、限られた財源を重点的、効率的に配分し、活力ある文化福祉都市の実現に向けてということが出ております。

ですから、私は以前から申し上げておりますが、これはもちろん重点的に――金があれば、これはさっきの発言のように、ある程度優先順位を決めて使わなくちゃいけないと思います。ですから、私はこの自主財源をふやすのに、税収の伸びを図れるような思い切った経済の活性化の事業を早急に市で起こしていただきたい。まず市民の懐が豊かになれば税収が伸びるわけですから、したがっていろいろなことができる。福祉関係にしても、全国のやつの4分の1、5分の1じゃないかというふうなこともあります。そういうふうなことも――館山市は高齢者が多いわけですから、十分にそういう手当てができるようにするには、やっぱり収入をふやさなくちゃいけない。それには経済の活性化を思い切って図れるようなことで、来年度の予算編成に入る時期でございますので、来年度の事業の中へそのようなものをひとつ取り込んでいただきたいということをお願いして、終わります。

◎議長（辻田 実君） 他にございませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております認定第1号乃至認定第8号、平成5年度各会計決算につきましては、10人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上審査することにいたしたいと思っております。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、

2番議員 増田 基彦さん

3番議員 島田 保さん

5番議員 宮沢 治海さん

6番議員 植木 馨さん

9 番議員 脇田 安保さん

11 番議員 山崎 雅己さん

13 番議員 榎本 春光さん

15 番議員 山中金治郎さん

19 番議員 川名 正二さん

28 番議員 飯田 義男さん

以上10名を指名いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました10名の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

延 会 午前11時19分

◎議長(辻田 実君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明20日から27日まで委員会審査のため休会、次会は9月28日午前10時開会といたします。その議事は、議案第32号乃至議案第39号、認定第1号乃至認定第8号等にかかわる各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは9月28日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 認定第1号乃至認定第8号